

# ひろしまの遺跡

第132号

## 弥生時代の竪穴建物跡を調査

— 福原2号遺跡 (東広島市西条町寺家) —



弥生時代中期の竪穴建物跡 (南から)

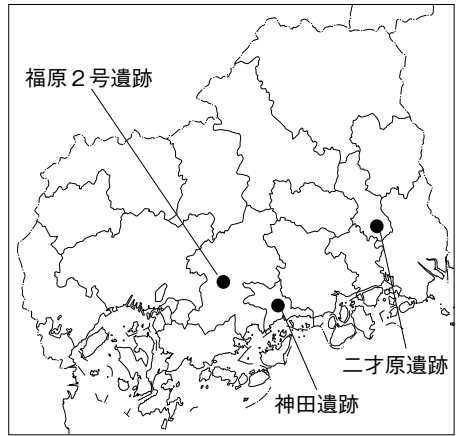
都市計画道路吉行飯田線街路事業に伴い、福原2号遺跡(調査面積1,700㎡)の発掘調査を行いました。

今回の調査では、弥生時代及び中世～近世の遺構を検出しました。遺構は、弥生時代中期の竪穴建物跡2棟、中世の段状遺構1基、近世以降の掘立柱建物跡1軒のほか、中世～近世を主体とする多数の溝・土坑・柱穴などです。調査地は寺家駅から東へ約400mの場所で、低い丘陵尾根先端の東から西へ下る緩斜面でした。表土を取り除いたところ、調査範囲西側で中世頃に埋没した谷が北から南へ入っていました。弥生時代の遺構はこの谷を避け、東側の高いところに限定されています。一方、谷周辺では中世以降の遺構を多数検出しており、中世以降は谷周辺も生活域として利用されるようになったようです。限られた範囲ですが、時代の変遷とともに地形と生活域の変化が連動している状況を確認することができました。(森本直人)

# 発掘調査速報

## 福原2号遺跡 (東広島市西条町寺家)

調査期間 令和6年4月15日～9月6日



弥生時代中期の竪穴建物跡のうち、SI67 (直径約6.5～7.0m) は、壁溝 (竪穴周囲を板材などで土留めした痕跡)、柱穴 (屋根を支えるための柱の穴)、炉跡 (建物の中央で火を焚いた痕跡)、ベッド状遺構 (竪穴内部に設けられた段) などを良好な状態で検出することができました。また、土器の素材もしくは崩落した壁材・屋根材と考えられる粘土塊も出土しています。この地域における弥生時代の竪穴建物構造を考えるうえで貴重な調査例になりました。(森本直人)

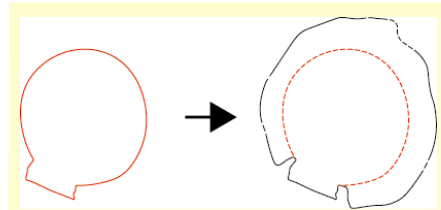


竪穴建物跡 SI67 (南から)



### 炉跡

中央の穴は火を炊いた炉跡と考えています。周囲では炭が固まって出土しました。



### 建替え

一回り大きくして建て直しています。内側に前段階の壁溝が残っていることから、建替えをしていることが分かりました。

### 粘土塊

土器の素材？  
崩落した壁材・屋根材？  
今後も検討が必要です。



### ベッド状遺構

壁の周囲に設けられた段を「ベッド状遺構」と呼びます。現代のベッドに似ていることからこの呼び名がついていますが、一部が焼けて赤く変色している部分もあり、ベッド以外の用途にも利用されたと考えられます。

竪穴建物跡 SI67 の構造



## 二才原遺跡（府中市広谷町）

調査期間 令和6年4月15日～6月14日

新山府中線単県道路改良事業に伴い、120mを対象に発掘調査を行いました。今回の調査範囲は、令和4年度に実施した第1次調査の道路を隔てた北側です。第1次調査では、備後国府が存在した奈良～平安時代を中心とする遺構が見つかっており、今年度の調査でも、関連する遺構が確認されることが期待されました。

今年度の調査では、土坑、柱穴、溝など、50基の遺構を検出しました。調査区の中央付近では、梁間2間、柱間距離約1mで柱を抜き取った痕跡が残る柱穴列を検出しました。また、北西部では第1次調査で見つかった溝の続きと考えられる溝を確認しました。確認できた溝は2条で、柵列を伴うものもあります。ただし、今回検出した遺構の深さは10cm未満と浅いものが大半であることから、遺構面は後世に削平されていると考えられます。

遺構に流れ込んだ土に含まれていた遺物は、弥生時代中期の土器が中心となっています。遺構面上に堆積していた土は、北東側の丘陵上から流れ込んだ土と考えられ、弥生土器の他に、須恵器や土師質土器、さらに石鍋の破片等、古代～中世にかけての幅広い時期の遺物が含まれていました。

今年度の調査で検出した遺構は、遺構から出土した遺物から、弥生時代を中心とした時期のものと推測されます。第1次調査時に確認できた遺構とは異なる時期の遺構が中心となりますが、遺跡の性格等の具体的な遺跡の評価は、今後の整理作業をとおして検討していきます。

なお、6月1日には第1次調査の成果報告も含めた発掘調査報告会と現地見学を行い、60名の方にご参加いただきました。（岸本晴菜）



空中写真（真上から） 写真下側が令和4年度の調査区



弥生土器出土状況（南西から）



発掘調査報告会の様子



柵列を伴う溝（北から）





## 神田遺跡（竹原市新庄町）

調査期間 令和6年4月8日～令和7年1月（予定）

神田遺跡は一般国道432号（竹原バイパス）道路改良事業に伴って発掘調査を実施しています。遺跡は竹原市北部で、北東の丘陵から続く南西向きの傾斜の緩やかな斜面に位置しており、150m程度西には田万里川と葛子川に合流した賀茂川が瀬戸内海に向かって南へ流れています。

調査面積は3,780㎡で、南北約240m、東西10～20mの帯状の調査区です。調査区を大きく3つに分け（北から1区、2区、3区と呼称しています）、1区から順次南に向かって調査を進めています。1区の調査では遺構面を3面確認しています。第1遺構面と第2遺構面は現代の耕作跡で、第3遺構面では弥生時代の竪穴建物跡や土器溜まり、中世の掘立柱建物跡などを確認しました。

調査区内から弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、焼き締め陶器、輸入陶磁器、金属製品等が出土しました。主に弥生時代から中世の遺物で、多くの遺物は斜面上方からの流れ込みです。また、縄文時代以前の石器が1点見つかりました。

竪穴建物跡や掘立柱建物跡は標高の高い調査区北半に集中していました。また斜面上方からの流れ込みの遺物が多いことから、調査範囲外の斜面上方には幅広い時期の遺構が広がっていると思われます。

これから調査範囲を徐々に南へ広げていきます。南へ行くほど標高が低くなることから、検出する遺構の種類や密度、時期がこれまでと異なる可能性があります。今後の調査成果に注目です。（渡邊昭人）



第1遺構面の耕作跡（南から）



第3遺構面の竪穴建物跡（東から）



第3遺構面の土器溜まり（東から）



土器溜まりの調査風景（南西から）

# 南観音考古学教室2024

見る・聞く・やってみるの考古学

南観音公民館と共催で、南観音考古学教室を開催しました。

回	期日	時間	内容
第1回	7月31日(水)	10時～12時	きらきら教室-勾玉づくり
第2回	8月7日(水)	10時～12時	火起こし体験と古銭の鑄造体験
第3回	8月22日(木)	10時～12時	きらきら教室-勾玉づくり



南観音考古学教室のようす (勾玉作り・火起こし)

## インターンシップ研修

8月19日(月)～23日(金)に、安田女子大学の学生1名が当室でインターンシップ研修を行いました。土器の洗浄や資料貸出の準備、勾玉作りの指導などを行いました。



土器の洗浄



図書整理

### インターンシップ研修に参加して

このインターンシップ研修を通して、私は考古学の楽しさや重要さを学ぶことができました。遺物の洗浄作業では、土器によって表面の模様や炭化物などの、時代を推察するためのデータを自分の手で発見する喜びやドキドキ感を感じることで、より考古学への関心を高めることができました。

考古学教室では、子供たちへの勾玉の作り方を指導し、考古学について興味を持ってもらうことで、考古学への道を開き、将来の考古学の担い手を育てることの重要性を学びました。

(安田女子大学 心理学部ビジネス心理学科3年生)



## 教材となった石棺

令和5年度に発掘調査した高猿第2号古墳では3基の石棺が見つかりました。その中で最も小さい小児用石棺SK1を、発掘調査終了後、広島大学へ引き渡しました。子供用のお墓といっても、使われた石の数が少ないだけで、石の大きさは大人の墓と変わりません。蓋石は約40×50cmほどの大きさで、重さは大人が何とか運べるくらいの重さです。調査現場は山の中ですが、教育に役立つのならばと、現場のみんなで山から降ろしました。



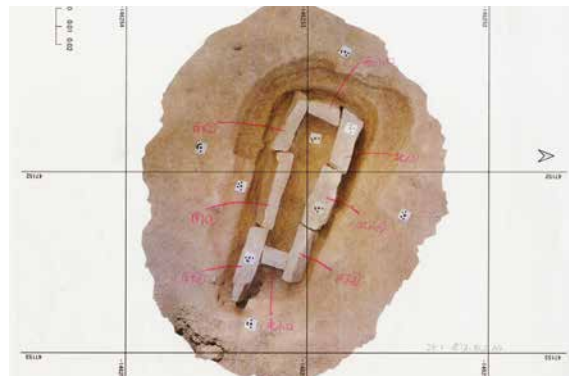
調査前の状況（写真中央がSK1）



高猿第2号古墳で見つかった石棺（手前がSK1）



小児用石棺 SK1



全ての石の配置を記録

当室へ持ち帰った石棺は、広島大学考古学研究室の教授や学生たちによって、東広島市のキャンパス内に移築されました。

発掘調査では、石の形や配置など全ての情報を図面に記録します。移築作業では地図面とにらめっこしながら、見つかった時と同じ姿になるよう、スコップで地面を掘ったり、重たい石を据えたりして、頑張って作業されたようです。



移築開始



まずは地面を掘ります



図面をよく見て並べます



あってるかな？



蓋石も図面の通りに



移築完了！

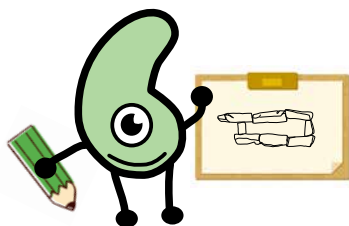
移築完了写真には、調査時の写真にはない蓋石がありますね（写真右側の石）。実は、高猿第2号古墳は知られていない古墳でした。工事が始まって重機にこの写真右側の蓋石が引っ掛かったことで、古墳があることが分かりました。近くに既に知られていた高猿古墳があったため、そちらが第1号古墳、新発見の古墳は第2号古墳と名づけられました。

蓋石は工事の際に完全に動いてしまったので、調査写真には写っていません。調査終了後、現場に保管されていたものを事業者から譲り受けて、広島大学へ引き渡しました。記録はありませんが、研究室の教授方の指導を受けながら上手に移築したようです。

この石棺は、これから学生の授業に利用されます。広島大学には、この他にも移築された石棺や竪穴式石室などがあり、何十年も授業に利用されています。高猿第2号古墳の石棺も、将来の文化財を担う人材を育成する教材として、長く活用されることを願います。



授業のようす



※石棺移築作業及び授業風景の写真は、広島大学考古学研究室より提供いただきました。



## 技術研修（発掘調査実習）



研修のようす

9月4・5日に県内の市町職員を対象とした技術研修として、発掘調査実習を福原2号遺跡で行いました。これは広島県教育委員会からの委託事業として、毎年行っているものです。

今年度は4名の参加者があり、調査前の確認事項から地形測量や遺構および土層の観察と実測、写真撮影などを2日間かけて行いました。

## お知らせ

### 令和6年度

### ひろしまの遺跡を語る2024—報告と講演—

開催日：令和7年1月25日(土) 12:30～16:10 (開場12:00)

会場：広島県民文化センター 多目的ホール

日程(予定)

12:30～12:40 開会行事

12:40～13:00 調査研究報告Ⅰ 「二才原遺跡の発掘調査」 当事業団職員

13:00～13:20 調査研究報告Ⅱ 「福原2号遺跡の発掘調査」 当事業団職員

13:20～13:40 調査研究報告Ⅲ 「神田遺跡の発掘調査」 当事業団職員

13:40～14:10 調査研究報告Ⅳ 「灰塚第8～11号古墳・石見銀山街道の発掘調査」  
当事業団職員

14:10～14:30 休憩(事務連絡・展示見学)

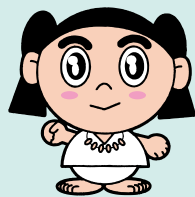
14:30～16:00 講演 「刀剣からみる中央政権とひろしまの豪族」

奈良大学教授 豊島 直博

16:00～16:10 閉会行事

聴講無料・  
申込不要

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせします。



(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報  
ひろしまの遺跡 第132号

発行日 令和6年11月22日

編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室  
〒733-0036 広島市西区観音新町4-8-9

TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951

ホームページ <https://www.harc.or.jp/>

E-mail [maibun@harc.or.jp](mailto:maibun@harc.or.jp)

発行 (公財)広島県教育事業団

印刷 株式会社ニシキプリント

